

俳諧人名報初編

下





田喜養護物

東都神田於  
玉ヶ池  
号谷鶴東寓居

故下幸了ノ草のゆきみや  
森の木を  
まつりあひ起らしちたる事 うゑす  
庫づれす一時向ふむとや  
秋の月  
一日ちうくへてこれる川の水

太白坐孤月

梅をつれ日づけの木とありゆ  
其草をくわへし川の勢うか  
はせく把さるて嘗てか月をな  
まくとあることあるとやけろも

東都赤坂  
丹後阪之上

暉 雪庵玉鵠

東都久保町  
但馬長屋

參りまじき地（アマツキチ）ありて  
幕（マツル）のたま中うる年月又（アシタ）め  
壇平（タケハラ）すりとぎをへてかくら原

小 村 吳 明

京都富之小  
路御池下ル  
行脚

寅（ヒニ）とす拂（ハスル）衣袖（イフツ）油（ウレ）りちき  
瞬（ハラハラ）日（ヒ）のさくらやまくらで又殊（スル）免（ムカシ）  
午（ハシマ）暫時（ヒカルヒメ）又宿（スル）すまくらを  
降（ハラハラ）行（ハスル）ケくの向（ハシマ）前

菱 木 椙 成

下總香取郡府  
馬村住  
菱木駄兵衛

踏（ハタク）きよひはせぬきよひもあらう  
ゆき退（ハリタク）す湯（ヨウ）より一筆（ヒサシ）経（キスル）小  
手（ハンド）もよよけ（ヨコスル）也（モロコシ）甚（モロコシ）み  
生（ハラハラ）い日（ヒ）の内（ナカニ）す根（ハラハラ）一枝（ハラハラ）

宜 雨 奔 孤 宿

常陸湖来  
和泉屋

恙脚（アマツキ）在（アリ）了（アリ）やうす（アリ）了（アリ）  
ねうらはや景（アシタ）のくわふ合（アリ）年月（ヒツキ）を  
日（ヒ）狂（ハラハラ）して附（ハスル）すをこゝにまし

御隣菴園寄

東都神田銀  
治町二町目  
不動新道

遠く見えりつゝはるゝ花幸  
葉のすゝめのものをあずまふ  
しらぬの白なる川はまく川  
か鮭とよばんさむわにけり

拾葉 湖山

武州川越領  
濱井村  
薩摩屋差門  
隱居

不列行すとひそめやうの山  
汎山すとちるしきもすと  
芳子すと  
秀明やだうのふと天の川  
峰すと水すと山すとゆきすと  
ゆきすと

宮津江田

下總佐原本宿  
上仲町

うゑすれと年と人とひく事すと  
田無すとひく人ひくかよはせ  
起の門がひくわくやあかく  
きの木すとひくすと計とまのの数

五德庵玉流

奥州白川郡  
白川  
川瀬傳三郎

種もすとひくとひく雀とひく  
手序不水おもとまとひく  
うの音不水おもとまとひく  
接せりゆきとひくとひく

正 緯 子 音

東都瀬戸物町  
秋山平右衛門  
号鏡浦菴

之身を立つて老の三佛寺  
行不休を志すも此處に須子浦  
所居すすむらぬまに接ひて  
山茶花が成日立すれども

樂 高 固 風

常陸水戸小川  
三町産  
下總押砂村住  
熊野屋啓藏

而多くはのりあらじ止むくよき  
魚の群のいはせにまかやうる若子  
魚の群のいはせにまかやうる若子  
山茶花むづくに植すと申す中 烟のう

六 花 竹 古 笠

東都浅茅  
原之住

海苔蘿菜に身をなす汝やうす西  
糸の身を折たる身入樹の他に身を  
洗勧す何事ぞ身を洗す身を洗す  
身を折す身を折す身を折す身を

仁更屋 小雨

東都本町三  
町目  
小西忠左衛門

うん癪の約あすけにうす柳の  
葉をうすくうすく草にうすくうす  
柳の針月季のうすく柳やうすくの柳  
うすく川原水八重海に流す

良齋 小舟

下總市川  
升屋彦四郎  
号玉醉堂

あやえ音をうめくの表うくらうの音  
乗物よそよそを零すきなむかゆ  
葛麦切とせん草子や板地の花

具道弄 吳石

武州草加宿  
竹内  
大坂屋庄藏

害みぬくをうめくの音をうめくの音  
夜棹みほのまんあ葉の月  
ひづる一葉の月や秋の夕  
さく時やかの月の深闇をうめくの

皎月舍江聲

東都浅草  
官庫勤士  
号青亭  
青木彌右衛門

是れはうめく花にうめくの音  
くわくわくすまつおりこの日月れいし  
ちの月れいしもと事もくわくの音  
さくすくの音れいしもと事もくわくの音

蕉園亭古翠

羽州末澤西  
大塚村  
高橋九兵衛

蓬莱の空のゆくよせ年  
ちの年不ゆくもみやや雲に  
草戸のゆくよせ年  
者ゆくよせ年

静月庵古柳

羽州秋田藩  
東都三絃堀

吉田氏

仕事に身を付けてゐる者もあつたが、就業者亦  
多くは、いわゆる「おちの者」であつた。その主  
は、池水の邊に在りて、月夜の風景を詠じて、  
かく名づけられたのである。

其月菴顧曉

青木御室門  
東都小川町大  
銀杏之邊  
丹園蕃湯浅氏  
号清風堂俳諧  
閑人

森ちゃんや、第三の先へやく、月日  
なまく、香りのそよ風、うすく、  
さくらんばの匂ひ、ほりに柳の  
川、かわに、すこし、ひる、天より、川  
翁の何處か、かくして、

楳莊玉大

陸奥盛岡大権  
四日市菊池氏  
号五大堂  
古里屋平助

かくすけく、れはほりに柳の  
やのゆの匂ひ、すこし、天より、川  
翁の何處か、かくして、

可口園英次

東都龜井町  
松塚氏

かくすけく、危丁のゆき、すこし、  
ひのゆ、鍔すこし、ゆの、暑氣、  
不快の、ゆきとすやねの、脇  
唐櫻の、葉をこらすやか等

古多津 郡江戸丸

東都小日向江戸

川中之橋

青木氏

辛はひみどりの日あらむ  
鶴をすくわくとすくとすく。  
さすがにのほん船をすくとすくにせす  
神の御と魂の御と御と御と御と御と御と

古里氣牛車

東都浅草

瀧澤山三郎

北斗ち居英山

七絆をひきよのかはくはく  
大沙汰やあまえうあまえりこ子  
鬼火をかくすくすくすくすく  
内命薄者のかれを自慢す

秋原詠歸

猪をもももももももももももも  
猪不力ああああああああああ  
まゆしつるをももももももももも  
めめり童子もももももももももも

東都市久保  
村尾州御屋敷前  
萩原五郎三郎

事仙子丁知

木の木の木の木の木の木の木の木の木  
木の木の木の木の木の木の木の木の木の木  
内命薄者一派や角力も  
おうこうう心の所の底ある

東都神田川  
號松齋又  
鯉退堂

楓 酒 杜 女

七十五

東都御藏前  
森卯氏桃穂妻

所の蘿ロをうそと笄スミをあ  
水浴ミズヨ不<sup>アシ</sup>ひに河カワ和歌ウカの狂クハ  
心ハよこしてすります石イシの歎カクの小  
村ムラすかのむくやくの御ミコトの御ミコト

朔 菴 因 菴

東都 小傳馬町  
二町目京師之  
人 三品唯一郎

雪シキは身カラもや肩カタのシテ角カタかくす  
姫川ヒメカワの流フロし氣ヒ多タチけどシテ御ミコト  
宿ヤマ守モリ田タケ火ヒ事モノのゆヒの事モノを  
宿ヤマ相シマの葉ハ吹ブフきすすみススミて見ミた見ミた見ミ

苗代亭 因爲

うらわの小薔ロ不<sup>アシ</sup>ひもくまを  
寄シテ了スル月ツキの君ミツバチ不<sup>アシ</sup>起スル故シテ是シテ而シテ  
刈ハサウエや畠ハタケをすくスルこまくまし  
おほきのきをあさるスル帆ハタケうき

淡雪夢島義

東都數寄屋  
橋御門外  
鶴屋善吉

淡雪シキやうらわこちとくスル小半日  
かまくまスル而シテ拂ハセふすアツシテ年ヒは高  
木キの木キ折ハサウエ日ヒはれはんの木キ折ハサウエ木キ

諸文集 田正

東都神田元岩  
井町  
遠州屋金兵衛

門内のとれすと西より柳  
よれ人を送り候すなり  
帆を下げて舟を押二百十石  
手荷をも添え小竹の葉を拂

日暮桑牛斧向之

東都横山町  
二町目  
印判師  
吉岡由兵衛

手う手うちからまひやあよ  
浦うちの夜あへりけくわ付多  
アシナリハシマハアハアハ  
さんわや五まん掌三入三

萬年令貞高

形(本)に寝(ま)くま  
ま(一)人(殖)す(押)り方(紙)帳  
模(ナ)カニ(ま)つ(袖)わ(ね)衣  
あ(人)を(引)歸(さ)る(一)き(る)

富田哲高

義入や移(シ)ム(シ)キ(イ)年(年)あり  
聞(子)も(サ)レ(タ)リ(ア)リ(ハ)ん(ナ)ウ  
う(キ)カ(ア)ル(シ)テ(シ)タ(シ)テ(シ)タ(シ)  
カ(ア)ル(シ)テ(シ)タ(シ)テ(シ)タ(シ)

東都產  
登遊于南北總  
業於詩畫

被 葦 鴨 湖

越後新潟

舊金屋清兵衛

初夷牛角ありとす。呼子少  
うはるま。掃れぬ市の落葉  
弓矢に落ま。祠の祭事  
心の落葉す。沙引出

蘆丸余 貞山子

二世

東都本芝  
別號流霞館  
俳諧佛 卧佛  
阿彌陀丸  
書画

一燃軒 夢

峰の花火ノ内ノ滅す。さき  
候日と車アサヒ。日、隼子  
端承アリ。とくにむかへ。お  
ちやぢの河。やまかず。升大著

華 堂 天愚

寝て不思議。かくの内。かくの外。  
却テ本草。かくの外。とし牡丹。  
押すと水の河。あらすじ。却  
は森。かくの外。せり。ひづ通じ。

東都御藏前  
守邸氏  
號抱重又無聲

宿の日下に。以てやまよ。而  
塔。アスミ。アラム。御草寺  
茅。持手。著。と。在。一葉。空

俳隱堂文集

七十九

京富之小路

御池下山

森の先に於する山川也乃ち  
生むりをもすとあらわす  
森の山川也乃ち山川也乃ち  
森の山川也乃ち山川也乃ち

古

常陸江戸崎產  
小林平七郎國學  
六樹園雅望門今  
綠樹園獨立俳諧

五言集 櫻所

新木立アラシ葉とちかく不ら  
良出一とすれどもるる 櫻ノ節  
河ノ流ノ風とれやまておちの風  
世の風とれらむとれらむとれらむ

牛舎寫雅

東都小石川牛  
天神下林邑民  
甲子巻瓢艶齋  
而生也亦可押当哉  
芭百合やけひへる芭子山の水  
桂多也や四子奔之  
岩ノ下高子山の波戸枯尾也

南無斧 蒼乳

京東山  
双林寺中  
季の帰すよすよ活よすよ  
猿子はすすきをすすみすすみの花  
横町のりの雪人多ししてそりの  
ちのまきりのり組みくま絆みくま

古

槇　名　西　月

杜鵑ふよこゝに聲のうるしろやあ  
之日月や向こし霞巖の画を町  
へくすや歎つて戸の遠間

属　伸　舍　三　萬

安藝廣島人  
村田只一号屈伸  
舍又松花樓  
東都霞ヶ關郎  
隅年勤番  
廣鳴竹屋野鷺

井　沙　鷗

薦院も根難もうけしけくま  
直をせんじゆかさう初鳥が  
あらうよゆる縫あり月と高  
山ふくらひあらつてすくはく

東　杵　菴　樺　柯

手追や夜をよみれう國り譽  
かよおきよく津くよ水も流せり  
の日や闇の鐘くまきくしれ  
えよよよよつよすやさりえ

東都泉橋  
直道第三街

尾　張　名　古　屋  
堀　詰　町  
井　桶　屋　造　門

龜屋竹齋

東都深川  
平野町

一里一里の山あいある山と山  
晴天やうそくしをくわのほ  
鶴のまき草引ひふくらま  
すくや残さう山のすくま

汀堂壯宣

江戸柳橋平右衛  
町伊勢屋兵吉  
号江戸門松子

うねり風の用のあくけ  
牡丹えやかな花葉のこしきむ  
盆をひきて酒や肴をと列  
山越へくらに木かねまくわ

雪水軒茶辭

東都西久保  
井上清七  
号竹樹軒覺睡

おれの心みるおきうつて御半熟  
持より入室す行まうと届かうの段  
夕食不する菓子搜す小柄の  
石臼を以て身をアレ計

臨泉亭山松

東都深川岡

止宿の夕をうとうとタラムみ  
草のうち細くしていわくわく  
内月のゆくわく一瓣一瓣  
くわくわくや吹き消えころるる

又不庵三朗

東都馬喰町  
杵屋藤三郎

草やさすも三しものゆ  
神の娘のまつりの角ノ  
日ひのりのまつりを提や薪の花  
義の便葉かにさうるや峰の雪

一然高三九

武州入間郡北  
之町谷  
擊釤道場  
吉野氏

正自や遊すやむゆ停りゆ  
さくらゆふからそよぐやま  
さくらゆあくろアリヤキミタマ  
さくらのまゆはくまゆに春不け

雨月峯山曉

東都横山町二  
町目川村氏  
日野屋三左門  
号正風堂又俳  
阿弥

雨、雲、山、雨、晴、朝  
明、自、や、と、休、不、い、以、人、り、秋  
さくら、や、雷、益、ふ、よ、く、う、行

又玄舍草廻

東都塩町  
森住氏  
上總屋

アキモトホシマツルム  
モヤニヤモヤモハリカミヌエヌ  
ハシナヒタスルホリナシルモハシナヒ  
ハシナヒタスルホリナシルモハシナヒ

角輪齋 西嶽

東都神田  
今川橋  
木村定次郎

起立あくまう畫はまふ柿を  
せうを巡ふ眼のちつとすりと定廢  
噫ハ川の向ひをけよも夕  
なりとも歎きせうぐくをり

北堂浦柿

さうとも木くしまりしれども角  
浦リテすつて重たきみかく  
幕や木きくす日ちのくら  
旅のアをもくらひて是日か

江戸新場

金澤屋吉兵衛

白泉亭酒人

武州高麗郡  
高倉村酒造出  
店木田氏  
日野屋藤兵衛

さくわくまくまく川にまくまく  
青川の水まくまく日やかくます  
ソホレタカホリモヒモヒモの秋  
麦せねりともくゆくも木のくまく

鮮彩亭巢山

東都油町  
佐藤吉兵衛

さくわくまくまくのちくも刻す坪の内  
山極りむらくし巣山巣山の月  
水門も門もあまくまくの月  
せ心もも温不河の月いろ奈

壽 石 貞 雄

二三

武州新里住  
戸谷氏  
届所上州藤丘  
和泉屋新太郎

升の塔ノ角ノ内に是の姫  
折角とゆけむおらま 障 菊之子  
起卧の竹ともすせ聲を響きの中

棲 花 里 大 谷

上州吾妻郡  
伊勢町  
根岸權六

桜ノ木下に草木平てよき計判  
根岸の宿草木也おなじん時くち  
多那羅子ノ木すくへりがよ清才

豊 齋 山 馬

初年や道をたどり山、水と思  
手穿ことつる手立也湍流もて  
蛇もれも流出————水落———水  
水深やう、石はまも自の如き

我 國 道 雲 兔

永川や浦乃一筋も川のあ  
諱 嘴や力称の事浦の口も嘆か  
本か———も以つれ多々セツセ

下總香取郡  
志高村  
高木佐右衛門

サ

よひ桃 菴 草芝

東都改代町  
飯嶋氏

舟底やくわれ さうりのひとかけ  
河せん山町や 寝とまえ  
まう秋や多 さくし 海の音  
一日の苗あそび ぬるみ のうえ

小童居食禁葩

信州佐久郡伴  
野左大澤村  
市川和作  
号槐園

いはくも花す ひめく 志立の山  
さくらふうみやかね なまくまく  
津つるく まくらまく うき山夜景  
唐擧のねじえ まくと あき

湛 亨 舍草舟

駿陽沼津藩  
佐々木正五郎  
号大圓菴

御朝庄下和苗を仕事  
盆の多す なし やも 羽ノ仰  
ねの葉の葉をくろぬるおまえ  
月をよし すむを帰 オハサキ

林秀庄 山風

東都神田紺  
屋町二町目  
岸村乙五郎

ひそひそ里へて紺や四風を半  
身とりして本を放らしき故を跡  
部はがく房へてすむと見ん 踊の舞  
をすむと見むよ 帰るよ

竹隱左琴

延々うすの鼻紙入一月郎

月郎

出羽米澤小翁  
吳服店  
竹田清五郎

櫻  
酒湯菖蒲  
頬がくちをくわんす  
切翁

前田茶六

下總香取長岡  
村前田孫左門  
茅草の新  
葦の新  
正面に紅葉山  
所の夕  
桔子の山

東都淺草  
竹門住  
釋春泰

日坐山鳥

ぬるみ掃  
さくらもん  
すくはな  
すくはな  
すくはな  
すくはな  
すくはな

戸山子

譯  
温氣の  
若水引  
手の身を

武州三合半領  
長戸呂村伊助

龍尾園 在古

東都元矢之  
倉住号舜泉葦又  
鍊齋

かくひもやさしにんじる爲城のす  
かくすううきのむちひこまゑ日  
歩枯やかみのとれぬ端の放  
あらぬうち鶴をも見ゆる跡を

蓬 莖庵 篠笠

下總源田郷  
小坂縫殿三介

かねすけはまかずよもての  
ねのくまむ女房かみの船舟を  
せとくわく道いよもく川萱師  
十月やあらざる山の所

湖心亭左岳

東都小傳馬町  
二町目  
宮邊氏

かくしのくにのす角や村さく  
峰のさくのアラモリのまくわ  
岸の紫のアラモリのまつわ  
岸すすきアラモリのまつわ

水溢居松之

本居東都湯  
鳴切通町安居  
葛飾寺島村  
小森杉二

茅みるやせむれむれ  
りくわやあらむす水の月  
秋の木のえりとれはく  
謝火のれくわや峰のまく

卓 阿 洗 入

東都牛込  
光照寺現住

子母不事てひやくをひの京  
吹の音うすゆす柳縄う柳  
媚夷や水引うさは葛白い  
かくらむちゆすまうる小もみあ

湖 内 堂 三 巴

東都神明神  
前帳面師利八

さくらん中やう祁のすす 鼻  
新の醉さけ一ノ歩くも葉うけ  
ニニ色へきくえきくと戸さへけや  
孤側へほさへとてそのよ大

清 風 夢 蒼 情

東都神田佐  
柄木町

まももまくらうきくまくら  
我氣のそらうだまよすくま  
啄木鸟ちくわらの鳥をす夕日本  
よしきり山葵薺波やもく荷く  
あくれやもくへとくねのけく

南 瑶 仁 票

江戸新場  
魚問屋  
三崎屋甚兵衛

鳩きくや鰐肩まくらうめ自ら  
すくしもやけりふく鷺のとく  
きくらうめり波もくはすくよも  
あくれやもくへとくねのけく

志内誓久減

東都芝田町  
六町目豊嶋氏  
号坎窓

うすくよそりすかすう烟る  
ひづれすかくちをふ田植ゆ  
立候や雨烟不やあらむ 広  
多かとひまどりのまつまく

柏立井 其年

東都油町  
澤田喜兵衛  
号水心社

えくよそり白をかくと費ひ  
まのせんとひづれを難り魚  
落り煙のよしを考へに天の川  
傍尺の退屈物や 田令溝

志内仙子其咲

東都小傳馬  
上町代地  
亀屋  
語竹葦

志内仙子其咲  
山をえりやはせをや ひのいの  
めうひ益すとまつりのゆく和をゆ  
寝室の新くわくわくや河をのき  
海苔槽をつくりおもむかひ

兼湖東近水

近江湖東辻村住  
田中喜兵衛  
下総市川出店  
又云釜屋

山をえりやはせをや ひのいの  
めうひ益すとまつりのゆく和をゆ  
寝室の新くわくわくや河をのき  
海苔槽をつくりおもむかひ

三 餘堂風明

秋田別藩東都  
濱町矢之倉下  
郎佐藤氏  
号孤腋齋

久之嘗て手洗ひや樹立すまづ  
蟬峰や小さりのまづ教へまづ  
萩絶末おもむき誠をあれけり  
難魚引小網のまづこまづ

芳室遊之

風うそわくとまづあつまづ  
ゆまづまづまづまづまづまづまづ  
年正月一日をとほり  
移つ事考不ひまくとゆる棕の日

舊涼園虛白

引出まづまづまづまづまづ  
阿波りまづやちにまづ行のと  
氣を方やかにまづて出まづまづ  
引出まづひまづいもまづがまづ紙元

桃林舍牛舌

清氣の氣を差しやうやうすす  
一宿酒まづまづ熱の火まづ  
かくまづまづまづまづまづ  
醉花月からこしままづ水まづの酒

東都小綱町  
高崎屋長平

江州玉山  
常明寺  
羅樹園  
煨半  
隱居所

東都本町二  
町目  
小林圓藏

石川歸風

東都神田堅天

二町別号吳晋

齋又規矩窓準

繩菴石川彌三郎

春秋雨をせり  
杜美をめどりしり  
夢一まみ  
ハ秋や岸をすけと鯨汗  
えそりや船く坐ひす大桶の節

青鞆庵墨

ひるしづきことよきの寄  
日ひや風呂の加減よしの時  
酒うれる人よのうそきくの花  
あすか葉茅をよひうち晴よ名

如蘿架翠風

四月やこりともゑづの木  
未中川  
篠田氏小兵衛  
東都本所堅川

池工菊所

草やいぢらぬあまくす  
臺まよひえくそくにゆく  
移けゑづのとせか月夜  
三日月や涙のえも野よし

伊勢山田田中町  
池上衛守

林 祢 白

九十一

大阪北濱一町目  
半鐘下  
河内屋東作

ひりかみよきいまひり梅子中  
志水、毛とまの村をもむかう  
船舟やまくとづく水をまし  
岩波下まますかく起アノカク

應 無 則 風

出羽秋田保戸  
川端  
秋山宇吉

賑の山をせりのさうを過よ  
角力のうのうをとふへる御  
猿の声や匂をもとめの處へ  
海へもさわらぬ和無づれり

蛙都 合 簪 水

上毛倉ヶ野宿  
大黒屋清右門

鉢植えあさるしよさよアノウ  
タマチ子おとすつわしりのりか  
鶯歌やねりりり鳥のみをすし  
もううたつまよどくうたう

鳥靜 無 具英

武州草加宿  
舟橋氏  
笠屋長左門

もすゑぬおとすかたす小鳥  
立え月不あくまくおもやまの音  
うの音をゆく日ぬくまよ船の音  
出光の加舟へまくし小鳥の音

二 柳 福 其 逸

武州草加宿  
野嶋彦左門

まよの處やうぐくにきりと人の事  
まう戸や四まの序よもじうとう  
三日月のゆきよしもんたむか  
そ候のうめとくにうせ伏ふるる

原 田 岷 異

出羽最上猪岡  
原田吉五郎

まうれちうひほううひうやく葉て  
まううと柳斗牛ミヤ エ節送  
桂帰也よつこう秋の身のそ  
吹やうぢりよ扇の巨根

案 天齋 其雄

秋田別藩  
東都濱町失之  
倉下邸佐藤氏

あらすすよ素すりのう 楽壽草  
すけよまくのまくすりのまくすりのまく  
えんまくよ金ときく角力とく  
まくしー番うとまくよあくまく

福 游亭 萬臺

東都瀧山町  
上總屋徳次郎  
在油町鶴喜店

まよの處や魚荷づけ事四つ若口  
れりケハ高き城のそえすす水荷  
セタヤつてよし井のまく

下總香取郡

志高村十三石

高梨長左衛門

うえぬくやはくは年もぬく  
けふふとれふす  
山口にゆく度すやうも紅葉  
さめのうすよ千郎節 菊脣

大素軒 旧題

つて学やまし履をもぐく舟の事  
船の事も並んでうそよす葉もと  
春の事もとくし森の渺み所  
ほどのとねり身の樹むりる

紀州尾鷲産  
江戸南茅場子  
鈴木久兵衛

東都駒込追  
分町  
高崎屋長右衛門

桃井金牛序

鷺山やもよよあすす列御の都  
菜山やくまよ入生すすゆるや  
高士筋は流るく一葉月十五日  
主翁もとくいふ降板のとき

岡崎錦子

人氣不曉了彦子さんから  
却くとくとくとくとくとくとくとくと  
遊歩の事かとくとくとくとくとくとくと  
足りる男の事かとくとくとくとくとくとく

東都芝山下  
屋敷麻布一  
本松住  
千弓之家婦

中川亭 章翠

葛飾新驛

中川屋庄七

ころそひうらりわらう月あらえ  
まよ月不せしよ帰くほくま  
春残の候よみあやかむれ  
寺のふもすり残るや大根園

二世 魚 水

葛飾竹待住  
釣窓渭水之男  
号柳斬五峰又  
此竹園

書名青池堂

かくわくすまくは  
御き来たもとまくや 羽さくと  
ひれくすまくまくまくの花  
山茶いや花りすひく茶ノ加減

玄炳舍魚專

葛飾宮古川  
之上竹街住  
佐藤氏萬醉  
一醒之男号東  
皋帶河樓

よしよし月の草木も 白魚網  
鰐くさくさくさくさくさく  
花不用ひのくさくさく月

旭江館魚冠子

東都芝横新  
町号梅う本  
芝浦漁隱

木魚新月のよしよし白魚網  
羣の鰐くさくさくさくさく  
月不用ひのくさくさく月  
行深くさくさくさくさく

九月堂菊也

長崎油屋町  
久松氏隱居

秋風の内もつゝれども未だに紅葉の葉  
京を下りては因縁の事ありて  
すこし遙のまかへるやうゆき  
之をうながして人を了ほひ古大角

臘齋季清

羽州秋田藩  
武陽浅草鳥  
越邸備田氏

高き山の上に秋の木立  
葉の落す處の音  
此處の風物の如き  
門先の木の葉を石蓆の如

竹裏菴紫巖

下總葛飾郡  
本所堅川未  
中川  
丸山傳次郎

葦うちもあらひ木本うち樹柳  
えりうれむ草木の中に不見ぬ  
手の木の葉も見えず  
いのちの秋の用ひをまかね

阿韓樓画文

北越與板藩  
東都住  
佐藤波之丞  
正風遠州流葉活  
華庵岩齋一壽

曉の秋の風の如き  
青の色の煙草の如き  
さういふ一葉の如き和風の如き  
えりして月の如きの如き  
之を因み

效竹庵綿稿

北越與板藩  
東都住  
前澤竹三郎  
号柳脇館

ゆりまくらゆる  
ひそよりやまとす  
りゆゑと風とよもよ  
さからひをまくらゆる

蝶序会琴堂

東都大傳馬  
塩町  
森 安兵衛

きのむ枝がせのゆえ  
うのういは  
森のつづれをひき  
入るくらゆる  
火桶

翠松堂甚標

東都豊鳴町  
一町目  
清水嘉右門

葉のむねゆれ  
せやくふく  
森のつづれをひき  
かんこもゆき

夕陽井 繸水

東都官庫小  
楊町住  
青柳氏

ゆゑて人やかく  
踊也せば  
松柏行

五 漢 莳 其 之

東都本郷元奇  
朝比奈鯉太郎

又手にうすを仕立つてや 煙の宿  
ましらんをすてゆすてや 川の宿  
宿のまくわちひまく御 西向ふ  
そかみをすまうて まくわやまとす

寒嶺菴 明花

信州水内郡  
蟹渕村  
青木重三郎

うそひまたかづくけをまく  
うそひあくべりうそひを まく  
うそひあくべりうそひを まく  
うそひあくべりうそひを まく

采園茲竟凡

東都西國  
藥研堀

又手にうすを仕立つてや 煙の宿  
ましらんをすてゆすてや 川の宿  
宿のまくわちひまく御 西向ふ  
そかみをすまうて まくわやまとす

巢 蘭 諦 宝

東都村松町

又手にうすを仕立つてや 煙の宿  
ましらんをすてゆすてや 川の宿  
宿のまくわちひまく御 西向ふ  
そかみをすまうて まくわやまとす

末 滋 扇 村 什

武葛西柴又村  
鈴木安五郎

かくひみすすまうへきの詩  
つむれに浦若とみやめやゆる  
さくらしきをうそとくわがすゑ  
あらわの山ん草のうりゆる

此中菴春聯

東都小舟町二  
町目新道号  
寺齋椎葉舎

不承ふとそのにて立りもたつて  
さうきのゆき通じあすけはる  
山下も秋へうやみ柳枝うね  
けくらうすすりうひうきの傘

鍼月菴松欣

跡不争とくにかくふをひる  
大急りゆうすけすやまとすよ  
れいきりゆきゆきしよるる  
むうちおすむれくちとく

蕉蕙秀鄉

うりくがくせんをゆく  
水のうきはくすやとくのく  
明月のうきくえゆる跡山の  
様のうきくえゆる跡山の

東都淺草茅  
町一町目  
林安次郎  
号萬年菴

東都淺草兩  
三間町

高砂亭 神廉

松子のさく や こひる まか  
即川 や 布引の山 みえ 五日  
牛角の河 わ 月の山 月の岩  
多磨の山 す 申日の月の山

桑 海 莼 姑 鵬

苗代 や 桐原の木 つる 三  
宿毛の日 うら 木の林をきり  
柳の木の木をすくや 庭の柳  
銷けぬ人よ おもむき 小妻の柳

寛 春 介

四月の夜の旅 けり ひよのち  
よの 中 や 風ひのけり 月の青面  
ゑの 木と いひて 叫びて 英の花  
旅 扇の風 えふすく 木桶の

樵 宗 四 明

波子のかく茶味とさくと 桜の香  
五月のやどり 五の峰す 茶色  
うれしがくに はるか おとぎの おとぎの  
ゆめとやく茶所へ がとう一歌

東都神田鍋町  
高柳藤五郎

東都元濱町  
江原氏

江州八幡出店  
下總水海道  
釜屋嘉兵衛  
号御風軒

鶴 翠 鳳 也

尾張五百羅漢  
前竹村氏

江ノ一あつゝ一枝子一ノツメのふ  
尊をひこむとえす日あつてふ生  
夕鳥や人出へ不 離 五  
うそめしをとや木のなすりまく

蓬

思 史 千

東都芝切通金  
地院境内号  
梅壺中又蘆巻

阿れさの花不るも夕て年よ  
玉六日傳不かせし後つ柳  
廻る葉落ちつゝに夜旦  
る半しよ木不思ひけりぬのき

千 來 莲 思 故

東都浅草  
雷神門前  
山彦

えり和氣あらぬ  
重ね柳の樹色ぬくし時  
月のよよ扇相くらすの名研  
花活きる大三千日

蓮 窓 井 喧 路

東都未挽町  
八橋竹吾郎  
煙手所良不よしや 幸所門  
うつゆうと本立たれすすの月  
この月にかわすす夢を女帝  
山もううえてほほみす本立とれ

松盛堂 松社

東都四日市  
松屋善八

あらうとひりうのちをすすめのふ  
盜人あくたけにあらへ身に付く  
あらか筋のまくわくら取とせき  
本多兵一筋みちやをとつれ

尾張京町筋  
益屋町  
錢屋喜兵衛

伊藤而后  
偏寧之桂

二三のわよもほのまうあらまえ  
城府のまなむせよ壁にさ  
姉のあ根こゑの内小井の家  
くまや科見のすやすく青賣

下總多喜  
五屋利助

宮主のまくわくら取とせき  
元残のまくわくら取とせき  
新兵のまくわくら取とせき  
貴人流のまくわくら取とせき

赤叶齋壽月

初入江戸のまくわくら取とせき  
入はまくわくら取とせき  
明月やまくわくら取とせき  
少くのまくわくら取とせき

今時江戸翠  
喬上仙雀書堂  
中

半江居子

下總上之嶋  
號蓑輪田巻

ゆゑ舟、あめけてゆくや。タガは  
津ちきあをうや。早朝のゆゑす  
翁永や功者了波を譲りナ  
林をケテが入る巨峰

探荷老屋紫莢工

東都芝魚籃  
大悲閣前号  
空巢

一よふくわゆる和のそんのすれ  
ねむしおのあざとか。ほしかづく  
庵をすくよるよのまを起るあく  
自らかくれりすくのまのまのまニ

其善舍従之

羽州秋田藩  
東都三弦堀邸  
住 橋本氏

柳柳  
そよそよそよそよそよそ  
そよそよそよそよそよそ  
柳柳  
柳柳  
人

田仲松翠華

下總葛飾郡  
市川村金屋

す葉しにまよひよ  
ほ葉  
瓣や葉さく集すばら  
さく葉のわくうつすや冬桂

## 松 半 二 晶

奥州石之卷  
醫業松本玄院

おもひのくとくにめや城の  
ましと町くさきはけみちあ  
らうとも旅のまつ城云々

## 寢 仲園 喜 騎

持 時より放りてゆく持えを  
人先不都てえをやまと のも  
二三禮 やくふく船の持えを  
本か やがくかくを退くを

## 吉 一 康 秀 之

よひやねはこのくす  
水きずから祭りあひる日モ  
いのくやま木うちの彦祭  
柿り木の木をすやむかくす

## 半 澤 二 立

口上ひのく候持も御代持  
りま おもひてみたうけ 信  
かきくらう扇てそくやまくのす  
ぬ 信のうせ良玉十夜

羽州最上漆山  
村半澤久次郎

東都神田  
松枝町  
七子師  
山川安五郎

森本以藻

百四

丹後田邊藩  
東武在番  
森本大兵衛

水の流れ柳の葉をすまし 空の峰  
やまとくはれをよみとるが大が  
あめうすにえをくわや まきのく

清音含化石

東都柳原  
岩井町  
石屋市五郎

扇をもとよまぶらしもやす幕を  
洋のすす林のや解の了忘  
扇のやす水や風あり月の文  
書を拂ひ去り美や小貢付

翠竹亭如柳

うちのす波のひまうすすすゆ  
河やよすね竹の色やよのゆ  
直のこよこよやしこよの月  
恰のね葉不そむきし つるぎ

瑞草庵甲友

川のすらりやまくらむくも  
渡りさすす水縁をほくまの風  
伸はる風折りでくせ市ふ  
とくしひる春の空すか

東都新橋  
南鍋町  
笠屋清次

駿陽沼津藩  
田邊直之丞  
號草廬又把  
菊嗣四友旧名

雀醉翁 芝生

百五

下絲千葉郡  
萩臺村  
黒川半藏

ひきりやせすへ伸ひみの桐の苗  
火とりやれはあまゆのやく  
鷺の巣を河ひとむかひより、うせ  
夕沙れすやよそくちぬニトモコ

東都西國柳  
橋同朋町  
号霜臺

松乏本壽堂  
翠のすゝめをりてくわいの  
すくめにいづくまくや  
高月や様を直小走り上  
ひの厚つねれ、鳴よきふ

蒼龍窟松柯

畫 東都淺草  
御藏御園内  
升上一助号  
小霞椿園又  
花魁

梅竹や孤松  
舌多の鶯鳴和やくのむか  
旅歸至、老いたるやうの煙草  
うけ石の下の木よれに水仙が

茶扇斗滅

人都改つてつすゆく柳  
詔衣えりの柳  
岸やいき奈い風の柳  
山種柳もそいすくはまゆ柳

武州入間郡  
越生郷西戸  
村織田井減

岡 因 晨 支

四六

信州水内郡  
善光寺在新井  
村 石倉菴中  
号戸岳

春るな花翌りもとよむ日ゆす  
扇足是坐してやうすすみ  
春不息ノクアモア屏ゆす  
まよひをすけらはす巨塔小

柳迺至伸、女

東都御藏前  
守邸氏  
抱儀妻  
打き月もたうみうきやまのす  
戸を三つもうもまく一まの門  
えまくまよまくそくうめの秋  
夜の城かまくまとまくと見訓

月花月菴書遊

東都本町二  
町目商家  
沖山長兵衛  
湖畔一木の木暮あや交野山  
の木や何れもあくく山花月  
立がかり色し不思ひす

同右

梅月真如春

掃くソリ不思のア歌くやまの満  
まよみのあくを活けぬ暑く  
孤侍や人をくみすく晴かくす  
ううきの初きらうう晴かくす

四六

山田専助

## 閑 因 景 支

信州水内郡  
村善光寺在新井  
石倉養中  
号戸岳

朝の了な花望久の夜の日の方  
房の卫坚之了はやまの木の了  
暮の息の木の木の解の了  
をの木の木の木の了は山の了

## 柳 遊 金 伸；女

東都御藏前  
守邸氏抱儀妻

竹の木の木の木の木の木の木の木  
戸の木の木の木の木の木の木の木の木  
入室の木の木の木の木の木の木の木の木  
秋の木の木の木の木の木の木の木の木の木

## 月 桃 月 番 書 遊

東都本町二  
町目商蒙  
沖山長兵衛

桃の木の木の木の木の木の木の木の木の木  
月の木の木の木の木の木の木の木の木の木の木  
山の木の木の木の木の木の木の木の木の木の木の木  
がの木の木の木の木の木の木の木の木の木の木の木

## 梅 月 番 加 春

同右  
山田專助

梅の木の木の木の木の木の木の木の木の木の木の木  
月の木の木の木の木の木の木の木の木の木の木の木の木  
春の木の木の木の木の木の木の木の木の木の木の木の木の木

禮藏舍子恭

勢川中萬

山田長政

同上

江の内に船をひきまつて、舟をよみがへり、  
所懐をもつて、流るけり。星や、月、船の記  
れあ見え、艇舟をもつて、小舟をひく。柳

三界庵 茹東

奥州津輕郡

黒石

松井嘉十郎

也々不氣のうり、ももうや薄の春  
又良や垣石等、またすす音をもつま  
松草やちや人の未、葉文政と  
月ももうくらむりて、さの石口を

菊巣 昂健

東都  
紀伊國屋

中野氏

ちくふを和すも、ゑりや、沙らうも  
草をえぐかすの満く、けま  
もくしと秋のゆく、折戸を  
ふく立つて、流る月を

北龍舎如流

東都馬喰町  
辻新七

年毎に、北龍舎如流  
紫砂玉や、かくもつて、冠木門  
松井嘉十郎、よしよし人松  
ゆきよしや、また人松木門本流を、け

中華壽遷

百一

東都豊鳴町

一町目

池田宗三郎

下駄ノナミナリナリナリナリナリナリナリナリナリ  
新兵やい兵もされいな門うま  
おへ事やこなやナリナリナリナリナリナリナリ

岡庭壽風

武州二合半  
領長戸呂村  
岡庭運吉

芦のれぬるよ何とまくまく水  
萍の中まくまくやあらわし  
魂酒ひひのまくまくやあらわし  
引先は

年末のや松葉

東都神田多  
町一丁目  
松坂屋蒲助

松葉不アラキ迎アラキシテ  
キタニモハアラキアラキアラキアラキアラキ  
松葉リヨリアラキアラキアラキアラキアラキ  
アラキアラキアラキアラキアラキアラキアラキ

古風藝寒

東都愛宕下  
仙臺中邸住  
柴田彦五郎

アラキアラキアラキアラキアラキアラキアラキ  
アラキアラキアラキアラキアラキアラキアラキ  
名月や已アラキアラキアラキアラキアラキ  
アラキアラキアラキアラキアラキアラキアラキ

朝倉壽文

東都浅草  
御藏前  
朝倉鉄次郎  
板本御摺物師

あらかじめうつてゐるやうなま  
おりのうねりニ三度めんたる某庵  
いさみのうねりもくへすもんや盡き  
房のうまく生むすづく「モロコシ」の

指東庵助道

東都向ヶ岡  
藤田庄右衛門  
入道三沙羅角  
遊顧柳華霞  
境ト跡入

ひらちぢみやや窓石くさる  
砾くわせ竹のうとうや 紅葉子  
かくらのむしーをぬりの余音  
節事なやつは音とてはかく  
お

翠雨園松葉

東都本郷  
森川岩  
上条氏

山中に一本たれりす 柳  
翠葉のうたはすとあー 茎の雨  
むかし常や城塙のものす中  
おー おうのうちもとあよ少所

菖露葦白

東都三番町  
栗田翁輔  
号松濤夢齋

花のうすやれくまくかの春の又  
夏のう月の河のうに新しく  
末年の日向すくまく白いうか  
小早川のうおうせゆす

春風軒 女柳

日暮すと夜鳥追

月夜の水

夜の月は清水あらう  
神りの山  
船舟のまきよれぬ  
入江の舟  
石川の舟をのまや風弓

吉有亭 壬江

頃誠に極端か見えぬ處之不  
石投へ川の流よ甚る日  
木枝むきの林くやがすう  
きくのまじいはるこまくわくまく

伊勢龜山藩  
東都住  
雨宮氏

東都本町一  
町目  
高野傳吉  
号半月舎

月塘水孤

もくろうあひきよ花の中  
すすみ沙崎ち小豆足をす素  
の月やえの枝く田の橋  
岸よきのまの花の下

文虹園水谷

猫の鳴沙の中不被す  
手をさへかねてかくはる音  
さくさくあひきよ花の聲  
さくさくあひきよ花の聲

東都深川  
北川町

東都官庫勤  
士姓安藤  
号開之又笑鵬  
文年

久保木 比古

下總香取郡

津之宮

久保木彦五郎

折立波ノ河内や御前山ニ  
行けりて川原山より至る所  
毛多川 之源引ひて山ふくら  
廻まつ草木のとくとくの川

麥 花 菜 氷 雜

武州日光道中  
大澤柏屋  
大垣氏

麦也トノ紙ナシタモ花  
子ノ木也松山の山久保山也  
よの木ノ木ノ木ノ木ノ木ノ木  
峰ノ木四木蓋も白い木也

雀 画 ぶ 雜 藻

東都深川  
北川町  
飯嶋氏

二三の木の鶴也ちへ毛利  
家系也根子一ツももと木也  
魚らや木をももと木ももと木  
葉ももと木ももと木ももと木

菊 壺 戎 雜

讃岐丸亀  
藤壺氏

どうの木の鳥は山也松也木もも  
木ももや木もも木もも木もも木もも  
内西派の内風もも木もも木もも木

今日斧元風

東都深川  
猿江重願寺前  
松本伊助

もくろいすみ湯にましりて 頼所  
源河とおひよすはせもくせ  
多めの枝とあれりあらひを  
絶え小師翁の定をすまう

竹村木貫

東都本所  
長崎町  
鳴屋

浮き手月夜不景してみゆきを  
ゆき色不ゆくや西山のゆきがまつて  
新雪不見きよタクタクも萬葉の  
そぞれすも月夜のアリケルゆき

芭蕉堂千崖

京師東山  
雙林寺中

まくらかくまくらまくら  
うの持てまくらアリまくらまくら  
アリまくらまくら月浦を出る  
垣こ一也セタタカモチ立候まくら

栗彷菴小圃

江戸中橋  
根ヶ原市郎兵衛

まくらかくまくらまくら  
頬ゑてや故をうちまくらまくら  
船舟のいやかうむらまくらまくら  
朝の屋すまくらまくらまくら

涉壁千堵

東都中橋北  
模町御油座  
相摸屋久次郎

瓶子さくらすと弟兒や妻の曾  
持量みよしの道所が前和  
人氣とめぐらしを修むる事  
ちゆうとむきに一日十石の量

正風林扇和子

東都牛込原  
町二町目  
水野下邸  
号椎亭

うれしうらはまくほんじゆく  
あらわす事の用事の事  
水よやかや絶不空の華やか  
うさとひの都のいはく年

北川居仙庵

東都深川北  
川町飯嶋氏  
号九華亭文  
老梅井

李柳や川主の年生二日月  
京骨や青森の扇の節  
引止一毛先しころ所の事  
扇扇持手難を経て手の事

又石音と萬

能登熊木中  
嶋宿  
室屋助右門

竹折三つ竹の枝を拂ふて  
行者と人を渡すと行くと  
此の力を入れ角力のうれ  
きと佛の心の如きをもつて

嘯　立　青　收

下総香取郡

小見川

阿波屋安兵衛

水ちやし花井ころのまよ雨  
近いあかまきかくはく耳と等す  
水浦うなぎあらわらちりもふすり

東都石町四町目  
大横町董齋  
号中徵外史  
松本正助

立　青　收

竹坂、さくざく道をくわぐる  
折り水に浮くわら毛ひま  
白萩、まつばいのねむる春場  
馬のまづのまづのまづのまづ

東都通油町

上山氏名伸譜字

仲羨好詩作和歌  
傍遊俳優有二子  
云伸道伸長共好  
發句俳諧

立　青　收

二三す楊活不並くやまくせう  
ゆくやくあく間まくやまくゆめ改葉  
待宵や酒不以きし要ニ附  
うゑ實不くとくとく年所無

立　青　收

奥州磐城湯本  
武藏屋宗助

立　青　收

田ノ木了水も難ゆるきみす  
牟立木了水も難ゆるきみす  
宇川茅草も難矣稀うるきみす

弘前藩東都  
本所石原  
那須與一構内  
伴 条藏

弘前藩東都  
本所石原  
那須與一構内  
伴 条藏

弘前藩東都  
本所石原  
那須與一構内  
伴 条藏

宜之園 小柯

擇焉不精也紫也綠也  
水源之和草之和枝之  
葉之和花之和葉之和  
宍形之和花之和小枝之和

東都若松町  
宇遍陀氏  
画号登成

下總市川  
舛屋茂宣門  
号陶々軒閑窓

玉辭亭泉升

鉢伐ノリモ可れまた勿れ  
座敷の向うと見えテモ御子少  
翁のあつてかくと膳の御子少  
翁もまたや而て延びしけれ

夜 櫻 莳 扇 雨

紫竹の如きとあらわの中  
又さくらの扇子とあらわと入り  
旗幟を人からして納豆汁

東都本所一  
町目河岸  
赤大黒屋  
安藤氏

雪 蘭

浦

房州長挾産

東都芝口三丁目

佐野屋重次郎

浦

櫻 明居 晴 河

浦

常陸土浦藩  
号綠亭又練齋  
掃石道人  
潮田氏

真晨高千瑞

百十六

武州松山在平村  
便町同慶松山町  
吉見屋吉兵衛  
東都便慶堀江丁  
三町目  
鈴木屋伊助

ひちまち日もあまたせへ晴れを雀  
を道御行とすがのむかし柳  
壁にて子ぬるよまきや辰年月  
以來のまことや小毛に來の都

武州二郷半領  
小向村  
酒井屋権四郎

酒家亭青洲  
夜未けに至りては夕暮れの心  
往うして少しあゆ中也にまみ  
一ノ里前後十酒テの波はるる波  
ちづるよいじゆくよしゆくよしゆく

房州長挾産  
東都芝口三丁目  
佐野屋重次郎

寒陽高雪蕭

松林も寒くさむら浦  
まつもつ森えりすすり雪ふる夜也  
宵雪やそめくらむりのそく  
まつもつや門へかけ重くさん儀

櫻明居晴河

緋つたる空色すすきや草の音  
波時々舟葉内やひとくちう  
ひびのうちふくろうて集に袖を下  
まを折りてとくらすの纏い

常陸土浦藩  
号綠亭又練齋  
掃石道人  
潮田氏

豊翠庵 梢山

下總香取郡

植房村

号衆妙菴

山崎源左衛門

まことにやうやくうつて月のあつ  
こくこくすくゆとせりのくに　洞ちゆ  
ゑね音のむら帰ゆうすとぞく  
うるまうり二人かよは食くめ

稿堂成兩

下總千葉郡  
毛見川宮之木  
熊勢三左衛門  
自由まやうの暮れとゆふもく　留  
並ひのを歌ふうかども鶴の舞  
ふんとれハこれもまちまつまくし  
用もまくさくよまくまく池の鷺

下總千葉郡  
毛見川宮之木  
熊勢三左衛門

松園切竹

東都明神下  
袋物肆  
東屋藤五郎

四早中をやれうるまゆの都  
夜入をせまうつまやかよつま  
人教や山の向ふ月のさと  
雀垣のよへりたる布ゆ田の

十重と樓兩湖

下總香取郡  
内山村飯田氏

もとより馬不傳をうそす事多  
けあめかんくよどく竹橋を  
まもくわらひて踊る舞はせ  
持てと余よくよそやまと

豊翠庵稍山

下總香取郡  
植房村  
号衆妙菴  
山崎源左衛門

まよ年やむくたづな 日のあつ  
ことくすくはとせりくに 桐ちか  
石松昔の古跡掃おうすじをば  
みるまつ二人が鳥は食ひぬ

橘堂成雨

下總千葉郡  
毛見川宮之木  
能勢三左衛門

自由さやる事多くゆる  
並ひとも歌より歌を擧る再  
みたれがこれもまたさくらん  
用もきんさくよすまむ池の鷺

沙 羅峯 节之

旅人を 菓子を あすけたるは な  
萩へ迎て 森へ向ひ 鞍馬山  
渡ありまじり カルや 石畳の路

南 涙

精

齋

武川川肥城  
西田中那  
田中新右衛門  
画号麗南叟  
名をもつて 丹画にかかぬ 扇子を  
もつて 一とぞ えどく とく とく とく  
ちみーうの所の 浮世中華がほ  
るううの帖をもつて 附のう

武川川肥城  
西田中那  
田中新右衛門  
画号麗南叟

井眉 井眉

大阪周防町心  
齋橋筋東庄  
号五春莊  
名をもつて 丹画にかかぬ 扇子を  
もつて 一とぞ えどく とく とく とく  
ちみーうの所の 浮世中華がほ  
るううの帖をもつて 附のう

井眉 井眉

年ねむよ二葉す二日月

東都芝山下  
屋敷麻布一  
本松住  
岡崎環

因兩毛毛不一葉や まつら家

洋 峨 亭 青 朗

東都橋町二  
町目算學師  
清水榮山

まめのくわくらむるのまのまくは  
あくのまく用の殖る旅くわ  
名因やまくふとくめくわくわ  
候まくはねくはくらくゆくの増大本

梅旭亭扇裏女子

東都芝住  
様、本連号  
菊婦人

梅旭亭扇裏女子  
葉柳のくわくわくわくわくわく  
よもんちのくわくわくわくわく  
あくとくくわくわくわくわくわく

松 飄 亭 成 鳶

東都本所  
北割下水

白旗さくらの御子昇りて  
着くゆくゆくゆくゆくゆくゆく  
休ひ岸りて川うまれるの后の月  
呼ぬうらき御子昇りて

綠 松 园 清 湖

湖東在太異  
江戸小名木川  
金屋六右衛門

かくらくらくらくらくらくらく  
かくらくらくらくらくらくらく  
かくらくらくらくらくらくらく  
かくらくらくらくらくらくらく  
かくらくらくらくらくらくらく

第 世間仙風

百廿

下總葛飾逆

井小松川

河野善左門

人抱ふか義入所  
名々をうすに見え田之  
乳うひみをうへゆく月夜  
餅搗やまく徳とまく

柯月坐言院

東都小川町  
大銀杏之邊  
丹國藩坪井氏  
号侏離闇人

松雨菴世塵

東都產  
關口次郎兵衛  
岡崎藩臣  
嗣開月菴世塵  
之號又有畠  
舍芦廻屋之号

閑魚小蓑

常陸人江戸白  
魚屋鋪住  
大久保良助  
号國香舎

不を殖るを入る  
りし事の年也雅  
之伏せし事の年也  
あんゆく日耕幸やもる常子

雪石亭青義

東都小傳馬町  
大阪屋十五郎

鶴子先へもひのまうす  
雪化粧まく人りなづりに  
来松や入古とおれ、よもう來  
柳子とて松子アモサ松花の雨

解 奉 水 戒

駿陽沼津藩  
東都外櫻田住  
小林篤右衛門  
号椎木本

雪子とてのまうすと音、  
起りてのまうすと音、  
我とてのまうすと音、  
浦とてのまうすと音、

柳葉含翠鳴

東都神田糺屋  
町二町目  
加賀屋  
牧野安之助

うそ雛やあんをくまうすと音、  
六月のまうすと音、  
うるまうすと音、  
かくはうすと音、

六九菴隨風

東武淺草新堀  
号風詠坊又恬淡  
齊光山

うそ雛やあんをくまうすと音、  
うるまうすと音、  
かくはうすと音、  
巨詠うそ雛やあんをくまうすと音、

越後守山中行記とて、梅輝子  
橘や柳や桺や梅や松や、南枝  
花束不若きがたり。清風ノ柳  
拂て、うらやましく、夜半未  
起すからひすむに知る事多く、  
豊植の用ひに迷ひて、庚子年、史  
官之江寺を参りて、うらやま甚矣。お  
渡りの不思議、取扱い難  
字は、人間難題かと思ふ。  
旅の旅の、一季の季、秋を、今も、  
ちつともれども、一年半の節度あるむ、有  
て、奈良へすゞる、すむらの事、入奉  
り、奈良、まことに、すむらの事、而所居  
處つんすむれど、やあ、手入とて、また  
入らぬとよいづれかの、お改きの如  
極まぬまく、舟をかへりけり  
柳不もじゆく、奈良も、おへり奈  
川、群馬とて、すくも、あそ直條、舟

越後

桐堂

大政

江戸

天正

三河

塞

毛呂

碩

兵庫

巢

布

馬

年

水

山

景

江戸

難波

奈良

女

子

梅輝子

甲  
江不入言、虹不也生、<sup>上</sup>  
呼白之毛、游于多水畔、<sup>下</sup>  
紫而赤、毛有光、<sup>上</sup>  
有毛、<sup>下</sup>  
内川游游、<sup>上</sup>  
章瑞、<sup>下</sup>

さほのをすまうむ柳不風花月

秋田

文

辯政ひはまくすかはるまきひ柳

赤齊

田

せうまくすかはるまきひ柳

江若

譯

り度まわと柳不風や月

高石

水

柳もまくすかはるまきひ柳

江若

田

かはるまくすかはるまきひ柳

忍

町

えはるまくすかはるまきひ柳

高麗

市

えはるまくすかはるまきひ柳

巴

跋

田もまくすかはるまきひ柳

上原  
白

雪

柳もまくすかはるまきひ柳

白

駒

柳もまくすかはるまきひ柳

白

駒

柳もまくすかはるまきひ柳

白

駒

内川也柳もまくすかはるまきひ柳

白

駒

章陽

左門 治井

波打ひやさんせうまくはりて、ゆゑ

波打ひやさんせうまくはりて、ゆゑ

江戸

ああたかすす海へ生え度さまでる、有巢

下サ市川

ああたかすす海へ生え度さまでる、有巢

上サ

人ノアシ摩子アキシテ、奈良の

伊勢

波打ひやさんせうまくはりて、ゆゑ

牛

アマタケモミコトミコトアツハス、浦

省

ナム夜アシマタク、奈良のと、御

牛

至日アシマタク、奈良のと、御

鳴

至日アシマタク、奈良のと、御

澤

旅人アシマタク、奈良のと、御

信井

アシマタク、奈良のと、御

加美

アシマタク、奈良のと、御

同

アシマタク、奈良のと、御

連

アシマタク、奈良のと、御

山

アシマタク、奈良のと、御

見

アシマタク、奈良のと、御

政

アシマタク、奈良のと、御

兵

アシマタク、奈良のと、御

下

交二

江戸

夜

桃尾

鳥

尾

馬

兵

ましまと我より更にぞりひづ、言新  
せんを考へ水をよひて流進多、大慶  
為年をもて満れまよあきる奈、駄六  
島一羽とも氣も出さず、咲す雪京  
華す木もとまことに也、萬葉集  
けらきりそをもとめし小詩多、芭綿  
吟歌も薄小秀もすこせむ者を考す、蕙雨  
色濃もと高不ぞれ、社詩、蕙園  
鶴は不見う少し満月も、是並  
火吹升つこひを喜む、序す有り、喜若  
恵タ我ひくに有り、あは、己才  
能すふ者もす無、うきくわ、万葉  
せ葉すもやの付てまし士生河京、太老  
芦原、年をひまの入るサウガ、萬夫  
うかく年をひまちく、年をキテ京  
のち人を信ひくも河ふのえ、江大蘭山年  
せらうむむ行、泊うか、雪湖子

萬物  
萬物

陪與

江大  
蘭山  
雪湖子

布田桂枝の井ノ口起

肇

持之手ふらひかひまく背引、歸正  
義ノケヤムカムラヒ人云都、得一  
麻川やめかがニガヒト

シキスカニシツ年久用ひ而

京

三正地

多ノ水也御經す乃ハ尊ノ為、南溪

山

子

朔中東所皆「是」水陸上、吉良  
ノシテヤカツツモ多モ知り今羽大河

因西古メテ云々

山多々主粧御ノヤ往々矣、既、羅

一里山越、すも、一里、一風

紫陽花多々系を多川のい、紫山

返りの羽藏ノ、すも、一里、春月

我をゆき土の小室和都云

大お用心、すも、申月、子月

水仙新のうをとて、山野草、甲、芝耕  
詩也傳、宿名所了小都、不

共庫、芝耕  
徐全

清羅女

そりそりやあああこす

月夜

葉落御下かまめ羽くわめ中

柿葉

月落御下かまめ羽くわめ中

柿葉

羽折扇子田の水引やまの月

柿葉

渭河の水引やまの月

柿葉

こみ合ひ宿子まの月

柿葉

人さよの廊を本と猫毛毒

柿葉

里川のゆきすすみゆづか

柿葉

御萬やあらりえむら

柿葉

一春

柿葉

道中を遙かまゆへ道郎多

柿葉

紫の多や三浦一島の山の岸

柿葉

御殿多休ひとひの井、柳、荷堂

柿葉

川の水ゆきまゆま月、有墨

柿葉

守るや腰上にまよ、ゆきて來る、葛所

柿葉

走るや風吹きまよ、一草の御

柿葉

相州

丹波

桂

若す年をうなづく山のそ

終日をうつてもうるを 捕水

ぬるの生はねむらちむら

あらゆりねのすれやかにまくあら

まよこゝりめのまよ春のま

せ一ね浪者うまくは女、柳

花入はまくはまくはまくは

まよく森まよりめのまよ

沙をこへん母のまよまよまよ

まよく森まよりめのまよ

まよく森まよりめのまよ

江常清 蓬名喜 菊月 菊中仙 菊原 菊仙 常清  
月美峰 峰柄 仰助

門事アリハシヒトマ、漫者ホシ

花会

京

の申すアタマノモレニモレニモ高麗ハ

伊勢

團扇

アキミテモモリモ行。前手ノ所

伊勢

松

魚ちきりホクハ

伊勢

雀叟

何時ミキツモリヨリモウスミ

伊勢

蝶

カノーチヤクニシテシテ秋ノ都

伊勢

面

秋穂アリルササガハ水仙花

伊勢

芳美

研磨ヤリツノミル也研磨

伊勢

芭蕉

風ヤモミタシタモニモニシテ芭

伊勢

杜鵑

人吉和枕相モシテ金の鳴

伊勢

丈翠

鶴形ヤモミタタシハ此をよ

伊勢

照

本鳴アリモタタタタタタタタ

伊勢

桂

印シモモリ伊チニナシ一葉モシ

伊勢

我

モヤリシヒニシテシテモケモシ

伊勢

秀千

萬シテシテモ痛のカタニアリ

伊勢

秀川

モホシテシテ力アリモシテ松一束

伊勢

三江

例シテシテモ傳火事多称シ即

伊勢

蘿光

江戸  
文  
昌

五色不すかく居てもかく秋の波が  
浪打ひアミルカムテの音と所

江戸  
文  
昌

まづれゝ風枝城や木檣まく

返シ不まえし野也よりお

美牛や羊牛也一用け向ひ

まづち水や林立の里の小酒窓

ちゆう臺と峰のよしにまく、高月

山都出アリくと風一そよの水

江戸  
文  
昌

風谷

皆の風吹きのよしにまく、水牛

江戸  
文  
昌

句成選也か重ねて是津城や歌也難玉  
あ辱の有とあ辱びとの人と也一代乃  
句成選也見す聞すすにゆらみて其  
作有れ年始事成盡ひす御ひ作者深  
重極りをすかくわが身もせざりあく此句  
のれ句と称其人也禽走なりとゆはく置

其以是第未取る事多也其事也惟是此

集め事ある事無ひ日暮れの暮をめとせ  
也みゆきの事解説せよ此道中  
あまちあはく人を也句よ线氣れども  
折詰の併稱往々訛るも明々加山つて  
多紫、山城弓下ゆをへまくの歟人へ也  
城色の消息を傳承ほどもな詰くと思  
高也、了に集め乍れ此句よ當作者を

於也。往々心之所到處也。是句  
之多是者也。於此之是。非成其業。而  
少法也。所以。不以。也。雖。是成。而。不  
成。故。也。未。始。事。也。書。也。之。未。患。  
誣。蓋。而。之。也。之。也。也。一。向。成。集。  
句。或。是。也。如。也。也。月。成。於。也。集。也。  
或。異。於。事。也。也。也。事。也。成。於。也。

尼が事あら世人也意り用代同す皆  
當すまよまよおせ祥り鼎貞也ひかく  
多うあらあま

西申九月

大極度



俳諧人名銀後編

近刻

